

展覧会タイトル「cannabi」について

Cannabiとは2つの言葉をかけてつくっています。

- ① 神奈備（かなび） = 神道において、神霊（神や御霊）が宿る御霊代（みたましろ）・依り代（よりしろ）を擁した領域のこと
- ② cannabis sativa = 中央アジア原産とされるアサ科アサ属の一年生の草本、大麻草とも呼ばれる。

Cannabis(大麻)は古来より神社のしめ縄や神札、衣服や七味などに使われていたように日本人の生活に密接に関係する植物であった。

しかし、戦後GHQ占領軍によって大麻取締法がつくられてから、日本産業や医療、精神文化から失われ「ダメ、絶対」という洗脳キャッチコピーの一部にくみこまれ、悪い植物のイメージがついてしまった。

現在、日本以外の諸外国では2010年代から大麻は医療、植物性燃料、植物性プラスチック・ブロックなどさまざまな分野で解禁され、石油に代わる持続可能な素材として普及しているのが現状だ。

20世紀の初めの石油産業による利権によって、薬や服、あらゆる素材が自然由来から石油由来のものに変わってしまった。

その結果環境破壊や石油由来の薬による医療費の増加や健康被害が多くあったのが20世紀から21世紀初頭だ。

これからの時代はSDGsみられるように地球や人体に配慮した持続可能な素材が必要であることは世界の多くの国や人々は気づいてきているはずだ。その一端を担うのが大麻という植物であろう。

例えば日本は大麻の認識においてアメリカより30年から50年は遅れている。

これは大麻だけの問題ではなく、われわれの地球の未来をどうしたいのか、という認識の問題でもある。

その中で、GHQに占領されてからまだ完全に独立できていない属国日本の、日本人の本来の精神性や文化を取り戻すためにcannabis(大麻)という植物は鍵になってくるのではないだろうか。

そのような思いから、今回の展覧会のタイトルを神奈備とcannabisの意味と言葉をかけた-Cannabi-と命名した。

今回展示している絵画作品の題名もすべて大麻の品種の名前にしています。

それぞれの品種の個性を視覚化して表現しています。

今現在日本では大麻取締法によって大麻を所持することは禁止されていますが、

その良さを芸術を通して表現し、鑑賞し感じとることはできると思います。

今回は、MoMo個展「cannabi」にお越しいただきありがとうございます。

MoMo 2022®
Janhadi
2022. mo mo.